



大ゴンドラの発着駅に広がるアルプスのパノラマ

十数年ぶりにスキーツーのメッカ、キッツビューヘル（Kitzbühel）へ行って来た。これが通算で三度目。前回は春スキーだったから頂上から麓まで降り降りることができなかったが、今回は雪に恵まれ、このTalfahrtを満喫した。しかも、クリスマス前のプレシーズンだから、ゲレンデは貸切状態の空き具合。クリスマス明けはトップシーズンですべての料金が高くなるから、スキーをゆっくり楽しむならこの時期に限る。ホテルもリフトも、プレシーズン割引になっている。気は早い、二〇〇六年も二月一七日からの一週間が狙い目だ。

構成されている。街の中心部にあるハーネンカム（Hahnenkamm）はW杯が開催されるゲレンデだが、この時期、またコースは完全に整備されていなかった。ここから五kmほどインスブルック方面に向かったところが、キルヒベルグ（Kirchberg）のゲレンデ。頂上から麓までは稜線を滑り降りる。稜線を一直線に降りるのはこのコースだけ。晴れた日にはアルプスの山々を展望しながら滑ることになる。およそ標高差1km。もう一つ峰を上がった頂上からハーネンカムに向かうコースが、W杯の滑降コース。

ハーネンカムからキルヒベルグとは反対方向に、アルプスを上るように五km進んだところが、ヨッホベルグ（Jochberg）。ここだけはキャビンではなく、古い二人乗りのリフトで山頂に上がる。コースが数本しかない。お客はあまり来ないが、練習するにはちょうど良い。ここからもう一本リフトを乗り継いでさらに峰を上がると、ハーネンカムとキルヒベルグの奥にある峰ペンゲルスタイン（Pengerstein）を結ぶ大ゴンドラ（新設の3Sゴンドラ）の駅に辿り着く。地上千mの空を移動するゴンドラに乗って二〇〇mのペンゲルスタインの山頂へ移動すれば、そこからはかなりの数のコースが使える。そのままハーネンカムやキルヒベルグへ降りることもできるが、もちろんゴンドラで戻ることも可能だ。

ヨッホベルグからさらに五km奥に上ったところが、パス・トゥルン（Pass Thurn）。今シーズン、この二〇〇mの峰から南斜面を下るパノラマコースが新設された。標高差八〇〇m、距離にして三kmのコース。少し狭いがアンジュレーションがあって、中級の滑降コースとして楽しむことができる。キャビン輸送なので、往復が簡単。

以上の四つのコースはすべてキャビン、リフト、ゴンドラを乗り継いで移動することができる。途中でゲ

## 標識がない

出発前は仕事に追われて、地図上の確認を怠った。ザルツブルグで高速を降り、ローファー（Lofner）からサンクト・ヨハン（St. Johann）を目指すという大まかな経路を頭に描き、地図を持たずに出発した。ザルツブルグから八〇kmだから、高速を降りれば当然、Kitzbühel方向を示す標識があると思っていた。もっとも高速道路の標識にKitzbühelがないだろうことは予期していた。だから、ザルツブルグでLofner方面の出口に注意した。小さな文字のLofnerを見つけ、正しい方向に高速を降りた。

ところが、道が狭いし、方向を示す標識がない。記憶にある日中の景色が見えない。暗がりでもとなく不安になり、ガソリンスタンドで進行方向を確かめた。Lofner、St. Johannはこの道で良いかと尋ねたが、違うという。Lofnerは知らない様子だった。St. Johannへ行くなら高速道路に戻って、ヴィラツハ（Villach）線に乗っていくのが速いという。本当かなと疑いながらも、高速道路開通で便利になったのかもしれないと思いついて高速に乗り直し、ヴィラツハ方面へ下った。後から分かったことだが、Kitzbühelの隣町になるSt. Johann in Tirol（ティロルのサンクト・ヨハン）のほかに、ヴァラツハ線にもSt. Johann in Pongau（ポンガウのヨハン）があるのだ。オーストリア人の誰もがスキーをする訳ではない。だから、キッツビューヘルを知らない人がいても不思議はないのだが、まさかガソリンスタンドの従業員が数十キロ先のキッツビューヘルやローファーを知らないとは思わなかった。正しい道に入っていないが、遠回りの道を教えられることになった。セカンド・オピニオンを聞くべきだった。

レンデから降りても、無料の周回バスが各ゲレンデの駐車場まで運んでくれる。

もうひとつのゲレンデはハーネンカムの向かい側にあるホルン（Horn）。名の通り、角を突き出した孤高の山である。ここは他のゲレンデと結ばれていない。キャビンで二〇〇mまで上るが、コースが単調で面白くない。麓まで下りる途中に、七〇年続いている山小屋レストランを見つけた。乳製品や肉製品はすべて自家製品。搾り立ての牛乳をプラスチックボトルに詰めてもらった。

## プレシーズンはお勧め

これだけのゲレンデを使って、五日間のリフト券が一三〇ユーロ。ただし、これはプレシーズン料金。キッツビューヘルの街はチロル山間の洒落た街。クリスマス前のアドヴェントの中心街には出店が並び、雰囲気がある。ハーネンカムの近くにスポーツセンターがあり、水泳や温水、サウナが楽しめる。出発前にブダペストでかけてもらったワックスが滑らなかったので、Inter Sport 店でかけ直してもらった。短時間で、ユーロでやってくれた（ハンガリーより安く、しかも技術がある）。品揃えのある大きな店だったので、念願のシューズを買った。一六年前にミュンヘンで買った赤色のKofachとも別れることになった。

クリスマス前だから、宿はどこも空いている。何も街の中心部に取ることはない。車で五分も移動すれば、道沿いに各種ペンション、アパートメントが立ち並んでいる。大きな部屋を借りて、朝食は自炊で、夕食は街のレストランでとるのが一番安上がりだろう。

ザルツブルグへは一時間。とにかくザルツブルグの中心部に向かって道なりに進めば良い。ザルツアッハ河にぶつかるから、橋を渡って左折し、ホテル・ザッハーを通りすぎれば、道路の両側が駐車できるように

乗り換えた高速の途中、給油を兼ねて、再度、キッツビューヘルのSt. Johannへの道を探ねたところ、ビーショーフスホーヘン（Bischofshofen）で降りれば、後は一直線のこと。ここでは正しいSt. Johannを覚えてくれた。ビーショーフスホーフェンは年末年始のジャンプ週間で最後の大会が開かれる有名なスキー場だ。間違いないと安堵した所為か、ガソリン料金を払わずに出発してしまった。しばらくして、お金を払っていないことに気がついた。どうしたものかと思案しながら運転していると、後ろからライトを点滅させる車がいる。もしかして追いかけてきたのかを思ったら、その通りだった。一五km以上は走っていた。チップを払って帰ってもらったが、よく私の車を見つけたものだと思案した。追跡用の専用車があるのだろうか。見つからなかったら、ハンガリーまで請求書が回ってくるのだろうか。何となく気がなった。

ビーショーフスホーフェンからサンクト・ヨハン（in Tirol）まではほぼ八〇kmだから、ヴィラツハ線の高速道路を走った分だけ遠回りしたことになる。高速を降りてから吹雪が激しくなった。パッド・ホッフガスタイン（Bad Hofgastein）、カプルーン（Kaprun）、ツェル・アム・ゼー（Zell am See）などの知られたスキー場への標識を横目に、横殴りの吹雪の夜道を進んだ。

St. Johann からキッツビューヘルはほんの数キロの道だ。ところが、そこから宿に着くまでに一時間半もかかった。吹雪で標識が雪に覆われ、キッツビューヘルの街に到着しても、宿舎が見つからない。街の中心部から数キロ離れたMoosjochに宿をとったのだが、そこへ向かう道が皆自分からない。春スキーで見た街と、大雪で囲まれた街はまったく別物だった。

## ゲレンデ

キッツビューヘルのスキー場は五つのゲレンデから

なっている。そこに車を止めて、アドヴェントの旧市街を散策した。この時期、車の旅行にはチェーンの携帯は必須。ザルツブルグ近辺は良く吹雪いている。とくにザルツブルグからキッツビューヘルへは山間の道だから、気をつけたい。

ハンガリーへの帰途、ゼンメリング（Semmering）に二泊した。毎年一〇日は滑っているゲレンデである。改めてこのコースの短さを実感したが、その代わり斜度が大きいのが分かった。ここできちんと滑れるようになれば、どのスキー場へ行っても怖くないだろう。

前回のキッツビューヘルの春スキーでは肩を怪我した。何ともない平地で、左肩をアイスバーンに打ちつけた。手当てをしなかったこともあるが、一〇年以上経っても後遺症がある。怪我のリスクから言えば、春スキーの方が高い。残雪の下は氷になっているから、そこにぶつけると大きな怪我になる。ゲレンデが圧雪されていて凍ったバーンでは衝撃の度合いが違う。スキーを満喫するのなら、やっぱり新雪。プレシーズンの恵みを存分に楽しんだ。



宿舎から見るチロルの山並み